

栗原重症心身障害児（者）を守る会 発会式 挨拶

平成17年8月21日

秋元俊通

本日、このように多くのご来賓をお迎えいたし、賑々しく栗原市重症心身障害児（者）を守る会の発会式を挙行できますことを、お支えを頂いております皆様に心より感謝申し上げます。

栗原市重症心身障害児（者）を守る会は、会員数8人という小さな会ではございますが、重度重複の障害のある子供たちのためだけでなく、障害のあるお子さんを持つ保護者やご理解いただいております皆様と連携を図り、すべての人が安全で安心して暮らしていける社会作りを目指して運動してまいります。

重症心身障害児(者)を守る会について紹介させていただきます。この栗原市重症心身障害児（者）を守る会は、全国重症心身障害児(者)を守る会宮城県支部栗原分会が正式な組織名で、この栗原市から全国に繋がっております。全国を守る会は、今年で創立41周年を迎え、各県からの意見や要望を取り上げて厚生労働省などの国の機関に働きかけたり、全国組織の友好団体との調整を図っております。また、毎年全国大会を開催し、特に10年おきには天皇皇后両陛下にご来臨いただいております。更に、宮城県を含めた東北6件で東北ブロックを組織し、こちらでも毎年東北ブロック大会を持ち回りで開催いたしております。

宮城県を守る会と致しましても今年で創立40周年を迎え、宮城県との折衝調整はもちろんです。重症心身障害児・者へのご理解を深めていただくために県内各地で地域交流懇談会を開催しております。昨年度は、当栗原地区で開催させていただき、栗原地区の全町村を回りましたので大変でしたが、今年度はめでたく栗原市になりましたので、私たちとしても窓口が一つになって嬉しく思っております。

重症心身障害児・者は統計的に約3千人に1人程度の出現率ですので、町村では人数も少なく、町村単位では小さな声にしかありません。このため、県内の各福祉圏域に分会を組織していきたいと願っております。ちなみに、栗原市では人口が8万2千人ですから、27人が統計的な人数となります。

また、重症心身障害児・者は医療ケアが必要ですので、現状では地域生活ができないため、専門の医療施設である国立病院やエコー療育園に入所しているため、その実態が地域の方の目に触れる機会も少なくなっておりますし、子どもを入所施設に入れると、子どもを捨てたのではないかと言われたり思われたりした時代もございましたので、ますます親の声は小さくなりました。宮城県から施設解体宣言が発信されましたが、私たち重症心身障害児・者を抱える親にとっては、地域で当たり前前に生活できる制度、サービスそして医療が整えば、そのような宣言が無くても地域に帰ってまいります。子供たちの命にかかわることですので、現状ではまだまだ施設から地域に帰ってまいることはできません。

更に、重症心身障害児・者は50歳になっても60歳になっても児童福祉法で守られており、この措置制度の窓口は県の子どもセンターですので、入所入園している重症心身障害者は、市町村には年金の現況届けを出す以外に直接の接触はありませんから、なお更、市町村からの重症心身障害児・者へのご理解は疎くなっております。

ところが、今回は衆議院の解散で廃案になりました「障害者自立支援法案」では、障害者への措置制度を廃止し、障害者区分の判定や障害者福祉サービスの受給審査は全て市町村が当たることになっております。今回は幸いにも廃案になりましたが、厚生労働省では早晩国会に再提出いたし、今年度内に本法案を成立させると意気込んでおりますので、私たちと致しましては市町村に重症心身障害者をご理解いただくことが急務となってまいりました。

今後は、栗原市の皆様に重症心身障害児・者をもっと深くご理解いただき、障害児・者への福祉制度やサービス及び医療が整い、全ての障害児・者がどこでも当たり前で安全で安心した生活ができるような社会となるように、栗原市を初めとする地域の行政機関と共に運動していく運動単位として、この栗原市重症心身障害児(者)を守る会が活動を続けられんことを祈念いたし、また、ご来賓の皆様をはじめ多くの皆様に重症心身障害児・者への深いご理解と厚いご支援を賜っておりますことに、心からの感謝を捧げ、挨拶とさせていただきますはます。